

R6野生いのししの豚熱等感染状況調査

検体材料採取及び送付マニュアル

【はじめに】

- ・国内において、豚熱の感染は現在も拡大しており、広島県においても令和4年3月21日に大竹市の野生いのししで初めての感染が確認されて以降、41例の発生があり、県内全域での感染が認められています（令和6年5月31日現在）。
- ・豚熱ウイルスに感染したいのししは、唾液や涙や糞尿中にウイルスを排泄するほか、血液や臓器にもウイルスが含まれます。
- ・糞尿等の中のウイルスは、室温（20℃）では、数日から2週間生存します。
- ・いのししを捕獲、採材する場合は、専用の衣類や長靴等を着用し、到着、捕獲、採材、処理、運搬、帰着の一連の行為において、身体や器具の消毒を行ってください。

（採材に関する記事を記載）

1 出発前の準備

（1）採材道具※の準備

※●委託業者から届く資材

○各自で準備をお願いする資材

（注意事項）

- ①採材は1度きりではなく、繰り返しお願いしたいため、資材の在庫が不足しそうな場合は、業者に連絡し、追加の資材を依頼してください。
- ②採血管が手元にない場合は、別の容器に入れ冷蔵保管しておき、（血液が固まっていなければ）後日、送付された採血管に移した後に送付する。

●採材セット

（手袋、ゴミ袋、紙コップ、採血管、ビニールテープ、ふき取り用ペーパー）

●消毒用スプレー

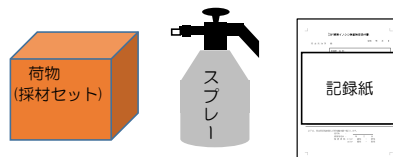
●記録用紙（検体個票）

●送付セット（送付用容器、送付用箱、養生テープ）

●消石灰（2kg）

○写真撮影できるもの（スマホ、カメラ等）

○筆記用具



2 現地到着時の作業

（1）専用の衣類や履物の着用

（2）作業に必要な器具・資材の準備

（3）採材場所の設定

○採材のしやすい場所を選ぶ

（1）専用の衣類や履物の着用



（2）必要な器具・資材を
もって現地へ

検体材料採取及び送付マニュアル

3 検体材料採取 作業手順

(1) 荷物置き場の確保

- ①ビニール袋などを敷き、その上に荷物を置く
- ②作業セット（手袋、ゴミ袋、紙コップ、採血管、ビニールテープ、ふき取り用ペーパー）を準備

(2) 捕獲いのししの止め刺し

(3) 個体の写真撮影

- 個体の全身が写るようにする
- 写真は止め刺し後の1枚でよい（白黒も可）
- 写真は次のいずれかの方法で委託業者に送付する
 - ・写真をA4用紙などに印刷して送付箱に同封する
 - ・印画紙に焼いて送付箱に同封する
 - ・写真ファイルをメールに添付し業者に送付する

(4) 捕獲いのししから血液の採取

- ①採材セットの手袋を着用する
- ②流出した血液を紙コップに回収する
（血液は凝固した部分でも可）
- ③採血管のゴム蓋をあけ、紙コップに回収した血液を採血管に移す
（採血管に入れる量は採血管の7割程度）
（残った血液は、いのしし周辺に戻し、紙コップはゴミ袋へ捨てる）
- ④採血管のゴム蓋をしっかりと閉める
（血液が漏れないように）
- ⑤採血管をペーパーで拭く
（使用したペーパーはゴミ袋へ捨てる）
- ⑥採血管のゴム蓋が外れないようにゴム蓋部分をビニールテープで補強する
- ⑦手袋に付いた血液をペーパーでふき取りゴミ袋へ捨てる
- ⑧手袋及び採血管を消毒用スプレーで消毒する

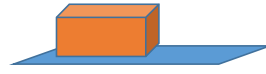
(5) 個体情報の記録

検体個票（別紙様式第1号）に必要事項を記載する。

【留意事項】

- 発見場所
 - ・住所かハンターマップコードか緯度経度のいずれかを選んでください
- ◇住所の場合
 - 小字まで記入する。
- ◇ハンターマップメッシュコードの場合
 - 採材場所のコードを記入する。
- ◇緯度経度の場合
 - （検索例）スマホのマップアプリの現在地を長押しする

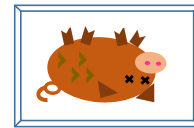
(1) 荷物置き場の確保



(2) 捕獲いのししの止め刺し



(3) 写真撮影

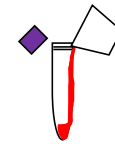


(4) 血液の採取

②血液の回収



③採血管に移す



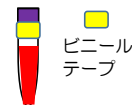
④ゴム蓋を閉める



⑤採血管を拭く



⑥蓋を補強する



⑧消毒する



(5) 個体情報の記録

【緯度経度検索例】

①マップアプリ立ち上げ

②現在の場所を長押し

③緯度経度を転記

検体材料採取及び送付マニュアル

4 採材後のいのししの処理

- 採材後の死体の処理については、各市町の方針に従い、処理してください
- 豚熱ウイルスの感染拡大防止のため、血液等の周囲への流出等に注意して作業してください
- 消毒方法等はリーフレットを参考にしてください

【埋却の場合】

- いのししが入る十分な深さの穴を掘り、埋却する
(深さの目安：いのししの上に1m覆土できる程度)

【焼却の場合】

- 血液等が漏れないように、いのししの死体をブルーシート等に包んで運搬する

(1) 埋却の場合

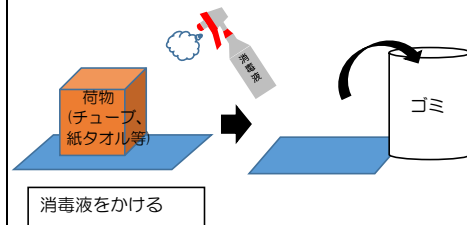


(2) 焼却の場合



5 撤収時の作業

- ①荷物を置いた状態で、荷物と、荷物の下に敷いているビニール袋に上から消毒液をかける
- ②下に敷いていたビニール袋をゴミ袋へ捨てる
- ③ゴミ袋の中のものには触れないように、ゴミ袋の口を軽く縛り、ゴミ袋を持ち上げて全面に消毒液をかける



R6野生いのししの豚熱等感染状況調査

検体材料採取及び送付マニュアル

6 荷物の送付※

※送付用箱・送付容器は、繰返し使用しますので、誤って廃棄しないように注意してください。
 ※送付用箱・送付容器に直接記載しないでください。

(1) すぐに郵送する場合

- ①送付セットから送付容器を取り出す
- ②送付用容器内の緩衝材の間に採血管を入れる
- ③送付用容器の蓋をしっかりと閉め、消毒用スプレーで消毒する
- ④消毒後、送付用容器と検体個票を送付用箱に入れ、養生テープで封をする（1か所でよい。ぐるぐる巻きにしない）
- ⑤送付用箱を消毒用スプレー等で消毒する
- ⑥送付用箱は袋などに入れずそのまま近くの配送業者に持ち込み、クール便、チルド便など冷蔵で環境保健協会に着払いで郵送する
 ※配送業者によっては、安全確認証明書の提出が必要となる場合がありますが、県畜産課で準備します

- 配送業者：郵便局、ヤマト運輸、佐川急便
- 送付日：原則日曜から木曜午前中までであればその日のうちに発送（平日日中到着指定）
- 送付先：〒730-8631
 広島市中区広瀬北町9番1号
 （一財）広島県環境保健協会
 担当者 下西

○伝票の品名：いのしし資材

- 伝票の貼付場所：
 「UN3373」と記載のある面以外の面に貼付してください。
- 方法：クール便、チルド便など冷蔵（保冷剤不要）
- 料金：着払い

【郵送手順】

①送付容器を取り出す



縦12cm
 横10cm
 高さ17cm

②送付容器内の緩衝材の間に採血管を入れる

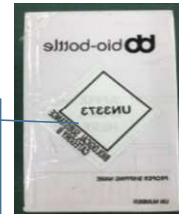


③送付容器と検体個票を送付箱に入れる



【注意】

この面には、伝票をはらないでください。



(2) すぐに郵送しない場合

※持ち帰った採血管（血液）は、郵送するまで、冷蔵保存（1週間程度まで可）する。
 （凍らないようにお願いします）
 複数の採血管をまとめて送付することも可能です。
 ただし、その場合は検体と記録用紙に番号をつけてください。
 送付方法は、（1）すぐに郵送する場合と同様

7 書類の注意事項

- (1) 検体個票は検体と一緒に
（一財）広島県環境保健協会へ送付する。
- (2) 捕獲採材報告書（別紙様式3号）（初めて採材される方は
 □座振込依頼書と通帳の写しも）は県畜産課に提出する。
 ※原則、捕獲の毎に提出することとするが、複数回分を
 まとめて1枚で報告しても構いません。

8 資材の返還

R6野生いのししの豚熱等感染状況調査

検体材料採取及び送付マニュアル

事業終了後の資材の返還については、次のとおり対応してください

- (1) 返却：委託業者に郵送してください
- (2) 方法：非冷蔵、着払い
- (3) 対象：
 - ア 資材を使用した者
 - ・送付用箱、送付容器、採血管
 - イ 資材未使用者
 - ・送付した資材全て